

LCT5 4K8K 3224MHz

UHF BS CS 携帯電話サービス (773~803MHz)

Model	希望小売価格 ¥(税込)	税別価格 ¥
LCT5	オープン価格	オープン価格



LCT5

付属品

- ストラップ.....1本
- ソフトケース(本器に装着済).....1個
- USBケーブル(50cm、Aコネクター → microBコネクター).....1本
- microSDカード(4GB、本器に挿入済).....1枚



別売品

- 中継コネクター FA (p.104)
入力端子が交換できます。



取扱説明書は
こちらからご覧ください。

BS-L・CS-LのBERは測定できません。
スカパー！プレミアムサービスは測定できません。

項目	LCT5
測定チャンネル	UHF(地上デジタル放送) : ch.13~52 BS : ch.1~23(奇数チャンネル) BS左旋 : ch.2~24(偶数チャンネル) CS(110°CS) : ch.2~26(偶数チャンネル) CS左旋 : ch.1~25(奇数チャンネル) LTE(携帯電話サービス) : 700MHz帯
周波数範囲	UHF(地上デジタル放送) : 470 ~ 710 MHz BS : 1032.23 ~ 1488.69 MHz BS-L(BS左旋円偏波) : 2224.41 ~ 2680.87 MHz CS(110°CS) : 1532.75 ~ 2070.25 MHz CS-L(110°CS左旋円偏波) : 2708.75 ~ 3223.25 MHz LTE(携帯電話サービス上り) : 718 ~ 748 MHz LTE(携帯電話サービス下り) : 773 ~ 803 MHz
入力インピーダンス	75Ω(F型端子)
測定レベル表示範囲	UHF(地上デジタル放送) : 18 ~ 115 dBμV BS・110°CS、BS左旋、CS左旋 : 40 ~ 110 dBμV LTE(携帯電話サービス) : 40 ~ 110 dBμV
測定レベル精度	±2.5dB以内 UHF(地上デジタル放送) : 35~105 dBμVのレベルにおいて※1 BS・110°CS、BS左旋、CS左旋 : 45~105 dBμVのレベルにおいて LTE(携帯電話サービス) : 40~110 dBμVのレベルにおいて (測定信号にマルチパスがある場合、誤差が出ることがあります)
BER・MER・C/N測定 入力レベル範囲	40~115dBμV※1 [UHF(地上デジタル放送)※2] 45~100dBμV [BS・110°CS※3]
BER表示範囲	2.2E-2~0.0 [UHF(地上デジタル放送)] 7.7E-2~0.0 [BS・110°CS]
MER表示範囲	0~32dB [UHF(地上デジタル放送)]
C/N表示範囲	0~30dB [BS・110°CS]
使用電池	単3形電池×4本 電池寿命(目安) アルカリ乾電池: 約14時間※4 ニッケル水素電池: 約18時間※5
消費電力	UHF(地上デジタル放送) : 約0.8W BS・110°CS : 約0.8W BS左旋、CS左旋 : 約0.8W LTE(携帯電話サービス) : 約0.7W
アンテナ電源	DC15V(最大270mA)
使用温度範囲	◎10~◎40℃
カードスロット	microSDカードスロット(microSD・microSDHC対応)
インターフェイス	USB端子(microB端子)
外観寸法	218(H)×91(W)×28(D)mm [入力端子を含む]
質量(重量)	約360g(単3形ニッケル水素電池4本使用時)、約240g(本器のみ)

※1 UHF(地上デジタル放送)は、すべてのチャンネルの入力レベルを115dBμV以下にしてください。チャンネル間のレベル差が15dB以上ある場合、入力レベルが低いチャンネルのレベル、MER、BERが正確に測定できないことがあります。

※2 (一社)電波産業会 ARIB TR-B14 規格パターン1、3において、地上デジタルテレビジョン放送でのモード、ガードインターバルに準拠しているものが測定できます。

※3 BSではTCBPSK、110°CSではOPSKの変調方式の信号が測定できます。

※4 パナソニック製アルカリ乾電池 LR6EJ使用時(UHF測定、バックライト不使用、非給電時)。◎25℃で連続動作

※5 パナソニック製ニッケル水素電池 BK-3HCD使用時(UHF測定、バックライト不使用、非給電時)。◎25℃で連続動作

3値同時測定※1

液晶画面の大幅画面化により、受信レベル・MER(C/N)・BERの測定結果を同時に表示でき、一目で必要なデータを確認できますから、作業時間の短縮につながります。

※1 新4K8K衛星放送の測定は、受信レベルと簡易C/Nの2値表示になります。



全波一括測定機能

地上デジタル放送、BSデジタル放送(右旋・左旋)、110°CSデジタル放送(右旋・左旋)の全帯域を一括測定できますから、各帯域の受信結果表示、壁面端子での受信判定が簡単に行えます。また、帯域別またはチャンネルごとにMER(C/N)、BERを加味した受信判定結果を表示できます。



受信判定結果

測定結果(受信判定画面)

詳細な測定結果表示



測定結果(グラフ表示画面) 測定結果(リスト表示画面)

多チャンネル測定

従来のハンディタイプのチェッカーで実現できなかった多チャンネル測定モードを実装しました。受信レベル・MER(C/N)・BERを同時に表示し、チャンネルごとに受信判定表示するリスト表示と、受信レベル、MER(C/N)をそれぞれ表示するグラフ表示の2種類の表示が可能です。



信号解析測定機能(地上デジタルのみ)

受信している信号をスペクトラム波形で表示しますから、遅延波(マルチパス波)の影響や、帯域内偏差の有無などの受信状態を視覚的にとらえられます。また、遅延プロファイルにより遅延波がガードインターバル内かどうかを、視覚的に確認できます。

サウンド機能

MER(C/N)が低くなる(アンテナ方向がずれている)と低音で、MER(C/N)が高くなる(高音)と高音でお知らせします。

新4K8K衛星放送の測定が可能

新4K8K衛星放送のレベルと簡易C/Nの測定※2が可能です。今後、BSデジタル・110°CSデジタル(右旋)の各放送チャンネルが、2Kから4K8Kの放送に変更となった場合、測定モードを切り換えることで簡易C/Nが測定できます。

4K測定モード:新4K8K衛星放送のレベル、簡易C/Nを測定します。

2K測定モード:レベル、C/N、BERを測定します。
BS・110°CS放送を受信しているとき、受信確認マークが表示されます。

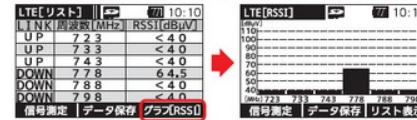
※2 C/N測定は、帯域外をノイズポイントとして測定する簡易C/Nになります。

受信確認マーク表示機能

地上デジタル放送に加え、BSデジタル放送、110°CSデジタル放送の受信確認マークを表示できますから、この一台で、地上デジタル放送、BSデジタル放送、110°CSデジタル放送のアンテナ調整が容易にできます。

LTE測定が可能

LTE(携帯電話サービス700MHz帯)のRSSI(受信信号強度)を測定できます。また、リストやグラフで表示することもできます。



測定データの保存

microSDカードにリスト表示、グラフ表示データを保存でき、かつ保存したデータはレベルチェッカーで確認できます。また、データをパソコンで編集する際、microSDカードを取出さなくてもレベルチェッカーとパソコンをUSBケーブルで接続することで、データをパソコンに取込めます。

バックライト点灯

液晶表示部のバックライトが、操作中だけでなく操作後も約1分間点灯しますから、屋根裏などの暗い場所での作業に最適です。バックライトの点灯は、ボタン操作により、ON/OFFできます。

電源ラストステート

電源OFF時に測定していたバンド、チャンネルを記録しますので、次回電源をONした時に、記録したバンド、チャンネルの測定画面を表示します。

ビルエキスパート対応Ver.7

スペクトラム表示をデータ保存する場合、BMP形式とCSV形式で保存できます。保存したCSV形式のデータは、受信障害予測計算・調査報告書作成システム「ビルエキスパートVer.7」で使用できます。